

2020年度 学生サポートセンターインターンシップ活動報告書

中部大学学生サポートセンター



目次

1	学生サポートセンターインターンシップの修了を迎えて
2-3	コモンズGOLD
4-5	コモンズCOOKING
6-7	キャンパスなび
8-9	あつまれ新1年生の森
10-11	冬を彩れ！コモンズツリー2020
12-13	コモンズ美活部
14-15	併設校生徒・出身者のサポート
16-17	中部大学春日丘高校クラブ活動のサポート（野球部）
18-42	学生サポーター活動報告ポスター（縮小）

学生サポートセンター インターンシップの修了を迎えて



学生サポートセンター センター長
伊藤守弘

ここに第6期コモンズサポーター、第1期キャンパスサポーターのインターンシップの修了を迎えました。修了生の皆さん、今どんな気持ちでこの時を迎えているのでしょうか。

さて、皆さんの修了を祝す挨拶ではありますが、新型コロナウイルス感染症の拡大について、言及しないわけにはいきません。コロナ禍において亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げます。また医療関係者の方々をはじめとする、日々社会基盤を支えてくださっている方々に深く感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

皆さんにとって、新型コロナウイルス感染症の拡大は、学びや研究、課外活動、また社会生活の一変は、予期せぬ学生生活をもたらしたことでしょう。大学は、皆さんが馴染んだ学修環境を、また友や師に囲まれた学生生活を提供し続けることができなくなりました。学生、教職員の安全を第一に考え、またそのご家族、関係者への影響、社会的責任なども考慮した苦渋の決断でした。皆さんのインターンシップ時期に、この災禍が起きたことは、本当に残念でなりません。

コロナ禍では、多くの企画等を中止や規模縮小せざるを得ませんでした。様々な状況の中で、本当に必要なこと、大切なことは何かと判断し、柔軟に対応してきました。しかしながら、皆さんは新しい学びや研究環境に適応し、自らのインターンシップを進め、成果を挙げたことにより、本日を迎えました。中止すれば、確かに安全は確保されますが、失うものも多いことを学んだはずです。この学びで得た、自分で考え、判断できる力こそ、本インターンシップで身につけるべき力である“人間力”だと思います。

現在進行中のこの災禍によって、特に若い世代である皆さんには、創造的作業によって、新たな社会を構築していくというミッションが課せられました。ぜひ、本インターンシップでの学びを活かしてください。私は、特別な思いを持ってエールを送ります。

コモンズGOLD



企画名・活動名	コモンズGOLD		
企画に携わったメンバー	川岸 朱沙	飯田 裕樹	武田 祥也
	ブダトキ スラジュ	三輪 風生	松井 航太
	柏原 純菜	矢野 梨花	芝高 亜実
	山田 真奈衣	説田 亜夢里	
企画の実施日・期間	2020 年 4 月～		
企画の内容・主旨・目的			
中部大学周辺にどのようなお店があるのかを知らない学生に向けて発案された企画である。それによって、大学周辺のお店を紹介する記事などを公開し、学生と、お店との相互で地域交流の活性化に繋がっていきたいと考えている。本企画は今年で 3 年目になる。 既存のテレビ番組にならい、地元密着を意識したパンフレットの制作を行った。取材の対象としたお店は、主に中部大学周辺で比較的、学生が行きやすい範囲の飲食店とした。作成したパンフレットは、コモンズセンター内に設置し、学生の目につくように工夫した。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど)			
● テイクアウト特集 今年度は、新型コロナウイルスの発生により飲食店への大きなダメージが見受けられる年であった。また、飲食店でテイクアウトが広まった 1 年でもあった。そこで、学生が学校帰り等に行きやすいお店を絞り、テイクアウト特集を行った。テイクアウト特集では、「EL MATADOR」,「Holo holo café」,「IZUMI café&bistro」,「洋食カフェ グリルオニオン」,「串男」,「ねこねこ食パン」の 6 店舗を取り上げた。 ● 2 階壁面ホワイトボードの活用 コモンズ GOLD を多くの人に知ってもらえるように目につきやすい壁面のホワイトボードに簡略化した地図を書いた。 ● 動画作成 今まではパンフレットのみ作成を行っていたが、学校に来れなくても見てもらえるように動画作成を行った。お店の情報のみでなくサポーターの活動を知ってもらうために活動写真を入れるなど工夫を行った。 ● ミニパンフレットの作成 新たな試みとして手に取りやすいミニパンフレットを作成した。今後、より多くの人に見てもらえるように広報部門で作成するパンフレット内に掲載する予定である。 ● GOLDドライブマップの作成 飲食店の取材が主だったが、より春日井の魅力を発信するためにドライブコースを考え作成することにした。 ● 取材予定 今年度中に「8Café」の取材を行う予定である。4 月完成を目標に行動していく。			
活動を終えて(感想、まとめなど)			
今年は新たに 3 名が加わっての活動となった。企画に携わるメンバーが増え、多くの視点から意見がもらえることや活動の幅が広がるなどの利点が見られた。一方で集まってるミーティングがほとんどできなかったため、メンバー間の情報共有が足りなかったと感じた。人数が増えるほど正確な情報の共有が大事になる。そのため、対面での話し合いが出来ない場合はオンラインツールを利用するなど工夫を行い意見交換の場を設ける必要があったと感じた。また、今までは、作成物が出来たら終了だったが自分たちの自己満足にならないように具体的な目標を立てて行動することや、どうしたら興味を持ってもらえるのか客観的に考えることが必要になってくると思われる。また、学生のニーズに合わせた行動をしていくなど日々の活動に変化を加えることや情報を発信していく力が今後重要になってくると考える。			

コモンズCOOKING



コモンズCOOKING

バンキッシュ



今回はキーマカレーです！



ほうれん草は1cmを目安に細かく刻みましょう。

材料

人参	1本	コンソメ	小さじ2分の1
玉葱	1個	水	50cc
アボカド	2分の1		
ニンニク	1片		
挽肉	50g		
カレー粉	小さじ1		

企画名・活動名	コモンズ COOKING		
企画に携わったメンバー	池田拓生	中島千尋	芝高亜実
	後藤大輝	矢野梨花	川上くるみ
企画の実施日・期間	2020.6～2021.1		
企画の内容・主旨・目的 新型コロナウイルスの影響による授業のオンライン化によって、家に居る機会が多く退屈な日々を過ごす学生やアルバイトの激減により生活面でのやり繰りが厳しくなった学生が増えました。これらの生活で生じる退屈・鬱憤、お金のやりくりを解消する為に、本企画を立案しました。 本企画で取り扱う料理は、「コストを抑えかつ手軽に作れる」を目標に作成をしました。また、作成した料理動画は YouTube にアップする事で、学内の学生のみならず、学外の学生も視聴できる形を取りました。広報に関しては、Twitter, Instagram を駆使することで、より多くの学生に知ってもらえるようにしました。 撮影する場所は、基本的に各メンバーの自宅ですが、各メンバーのプライベートな空間の撮影を避ける為、背景を統一するため、そしてより料理企画らしい雰囲気を作り出すために調理実習室の利用を目標としました。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど) まず、企画参加メンバー同士で話し合いをする日程の調整や進捗状況で問題が発生しました。授業のオンライン化による課題量の増加や学科の予定の違いから、日程の折り合いが付けられなかったり、進捗の足並みを揃えることができませんでした。また自身も初の企画主担当であったことから、期限を設けず、自由気ままに活動ができる環境を整えてしまったことにも問題がありました。これを防ぐために、時間単位で話し合いができる日を決めるタイムスケジュール表を作成し、各メンバーに連絡を取る事で、逐一進捗状況が理解できるようにしました。 このような対策を行いながら、自宅で企画の活動を進める一方で、企画書作成当初から目標にしていた調理実習室での料理動画撮影を実現するべく、必要な書類を作成するなど、実現に向けた準備を行いました。しかし、コロナウイルスの第3波到来が噂される時期に交渉を進めてしまった事により、調理実習室で感染者が出てしまった場合のリスクを考慮して、使用することは認められないとの通達を受けました。 ・計3本の動画を作成し、2本を公開しました 1 回:パイ生地不要！食パンで簡単に作れるパンキッシュ 再生回数81回 高評価1 2 回:アボカドをトッピング！絶品キーマカレー 再生回数26回 高評価2			
活動を終えて(感想、まとめなど) 本企画を通じてコロナウイルスの影響により、これまでの様な企画活動ができない社会を痛感しました。対面型会議の激減や感染リスクを考慮しての調理実習室使用禁止など、当初の目標や活動の流れ通りに進まないまたは実行できない事が多々ありました。しかし、タイムスケジュール表の作成などの対策を行う事によって、少しずつ普段行う企画の流れに乗せようと思いました。普段の企画であればこのような対策を講じる事は無いため、コロナの影響で普段行わないような経験ができたと感じました。 今回のこの企画は完璧であったと自身は感じていません。勿論、コロナの影響で活動が思うように行かなかったという事もあります。一方で自身の力量不足であったとも思っています。授業システムの変化に慣れることに時間がかかり、軌道に乗るのに時間を要しました。今後料理関係の企画を行う際には、今回挙げた反省すべき点を十分に考慮してどうしたら同じような反省をせずにできるかを考えながら、活動に当たっていきたいと思います。 企画としては十分に機能していなかったとは思いますが、コロナの対策に国内が頭を悩ませていた時期にこのような企画を行った事は、そこから得られた苦い経験を振り返ってみても良い経験であったと思いました。			

キャンパスなび



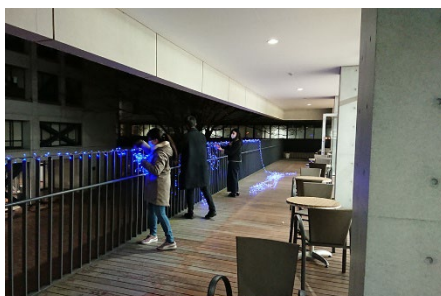
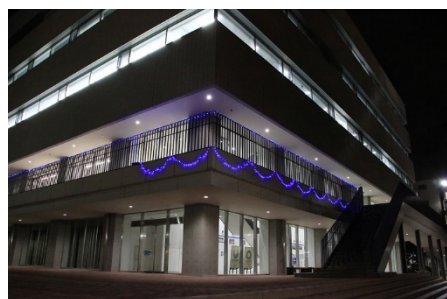
企画名・活動名	キャンパスなび		
企画に携わったメンバー ＊印は当日のみ参加	神野 稜太	新居 紅綸	池田 那月
	説田 亜夢里	丸山 喬士	飯田 裕樹
	川岸 朱沙	杉山 友望	武田 祥也
	矢野 梨花 ＊	中島 千尋 ＊	松井 航太 ＊
	後藤 大輝 ＊	三輪 風生 ＊	柏原 純菜 ＊
	池田 拓生 ＊	芝高亜実 ＊	山田 真奈衣 ＊
企画の実施日・期間	9 月 17 日・9 月 25 日～10 月 1 日		
企画の内容・主旨・目的			
今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ほとんどの授業が 5 月より遠隔講義で行われた。そのため、秋学期が始まる現時点でも新入生は学内での生活に慣れていないであろうと判断した。そこで例年 4 月に実施していたキャンパスなびを 9 月に実施し、コモンズサポーターが新入生を案内することで新入生の不安を解消し、よりよい学生生活を支援したいと考えた。 また、学生サポートセンターやコモンズサポーターの存在を新入生に周知するほか、参加したサポーターが相手を重んじる会話方法を考える機会とし、通常勤務における利用者対応に役立てることも目指した。 規格の運営方法は、各箇所に配置したコモンズサポーターが、講義室等、行くべき建物の位置がわからない新入生に対し講義室の場所の説明や案内を行う。また、学生支援課等の新入生が利用する可能性のある部署について、簡潔にまとめたものを不言実行館 1 階等に掲示する。これに加えて、新入生の不安を解消するという目的のもと、その他の相談や質問も受け付けることとした。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど)			
企画の目標。本企画の利用者は、昨年度の結果を上回る通算 300 人を目標として設定した。しかし人数にはこだわらず、質の良い対応ができるよう、参加サポーター内での情報共有を徹底したい。特に、今年度の 1 年生は、新型コロナウイルスの影響で不安や不満を強く感じている。同じ境遇にある学生同士の立場で、より多くの学生の不安を除くことを最大の目標とした。さらに、本企画を通じて、参加したコモンズサポーターが不安を持つ相手を安心させられる会話術を身につけられるようにした。 活動を終えて、5 日間の対応人数の合計は 72 人であった。目標の 300 人は達成できなかったが、通学する学生が遠隔授業の関係で少ないことや例年と違いサポーターの都合から午前 9 時から 9 時 25 分までのみの活動であったため対応人数が減少することは致し方無いと考える。			
活動を終えて(感想、まとめなど)			
前年度よりも対応人数は減少しているが活動の質は向上したと感じている。サポーターが班になって 1 年生に声をかけるのではなくサポーター一人一人が積極的に声をかけていた。さらに、施設の場所の説明だけでなく大学の先輩としてキャンパスや学食などの情報も話の中に入れていた。そのような点から活動の質が向上していると感じた。 キャンパスなびはサポーターがコミュニケーション能力や積極性を身に着けるのに最も適した企画でもあり、コモンズセンターでも歴史のある企画であるので常に進化しながらこれからも続けていって欲しいと思う。			

あつまれ新1年生の森



企画名・活動名	あつまれ新1年生の森		
企画に携わったメンバー	中島千尋	飯田裕樹	川岸朱沙
	國井博誉	芝高亜実	ブダトキスラジュ
	柏原純菜	後藤大輝	山田真奈衣
	池田拓生	新居紅綸	池田那月
	説田亜夢里		
企画の実施日・期間	10月21日 水曜日		
企画の内容・主旨・目的 今年は、新型コロナウイルスの影響で多くの授業がオンラインでの開講となり、私たち学生が大学に来る機会が激減した。新入生恵那研修、スポーツ大会、大学祭などの行事も中止となり、思い描いていたようなキャンパスライフを送ることができず、友達を作る機会がない、学科の学生と交流ができない、先輩に大学生活のことを相談したいといった気持ちを抱えている新1年生も多いと思う。そこで、大学生の一日を紹介して新入生の不安を解消したり、レクリエーションをしたりしながら交友関係を築くことを目的としている。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど)			
活動内容			
1. 自己紹介 グループに分かれてアイスブレイク			
2. レクリエーション 中部大学のマップ作成、ワードウルフ			
3. 大学生の一日を紹介、その他疑問に答える質問タイム			
4. イベントの紹介 中部大学で行われているイベントを紹介			
<u>企画の目標は、学生に「参加してよかった」と満足して帰ってもらうこと。(アンケート結果で満足度に関する問いに対して「満足した」と回答した人が7割以上)</u>			
<u>サポーターの目標は、企画に楽しんで参加すること。</u>			
参加した学生全員がアンケートで企画の満足度について満足、ほぼ満足という評価をしてくれた。また、サポーター自身が企画をしているときに笑顔が見られて、楽しんでいる様子が見受けられた。			
反省点や改善点は、多くのサポーターが企画に関わることで、各々のサポーターの意見を尊重することや、各サポーターに合った役割を分担することが出来なかったことである。まず初めに企画の目的をしっかりと伝えて、各サポーター自ら能動的に企画に参加し、自分の任された役割以外のことについても意見を交換し合い、サポーター同士で報告し合う雰囲気づくりをする必要があった。			
良かった点は、企画本番で参加者が楽しんでいる様子が見受けられたことが挙げられる。当日、来る予定であった参加者が来られなくなってしまったという状況にサポーターが臨機応変に対応することができていた。			
今後の活動では、サポーター間はもちろん、学生サポートセンター事務課の方々と、情報を共有すること、企画の目的を参加者全員が確認することが必要だと感じた。			
活動を終えて(感想、まとめなど)			
企画の参加人数が40人には及ばなかったが、多くの新1年生が参加してくれた。このことから、大学生活に不安がある学生や他学科の人との交流を求めている学生がいることが分かった。来年度も同様な企画を行い、新1年生が何を知りたいのかを調査し、楽しい学校生活を送ることができるきっかけづくりをしていくと良いのではないかと考えた。			
また、今回の企画はコロナの感染を予防する必要がある、グループ活動を取り入れる中で密にならないようにレイアウトを工夫したり、消毒や検温を徹底したり、今までの企画では考えなかったことまで気を配る必要があり、苦労したことが多かった。			
企画の準備段階では、情報を共有することの難しさを痛感した。ミーティングに参加できたサポーターだけでなく、参加できなかったサポーターにSNSを通じて情報を伝えても捉え方が違っていたり、何が伝わったのかが伝わりにくかったりすることを感じた。これからは、対面で人と話す時間を設けていくことが必要であると思った。もし、対面が不可能である場合には、ズームであったり、LINE電話であったり、顔が見える状態で話すことが良いと考える。			

冬を彩れ！コモンズツリー2020



企画名・活動名	冬を彩れ！コモンズツリー2020		
企画に携わったメンバー	新居紅綸	川岸朱沙	中島千尋
	ブダトキスラジュ	柏原純菜	後藤大輝
	山田真奈衣	芝高亜実	武田祥也
	池田那月	丸山喬士	松井航太
企画の実施日・期間	2020 年 11 月 16 日～2020 年 12 月 26 日		
企画の内容・主旨・目的			
本企画では、コモンズサポーターを主体とし、大学内の季節を彩る機会を提供することを目的とする。学生にとって身近で触れやすい題材や大きな展示物を用意することでより興味を持ってもらい参加者の増加を促し、企画の開催にあたりコモンズサポーター公式 Instagram アカウントを活用することで大学内外への広報効果の向上を目指す。また、この企画を通してクリスマスツリーの手配や管理、SNS を通した広報活動、参加者の利用しやすい環境整備などを通したコモンズサポーターの企画力や実行力を向上させることも目的とした。 内容としては、不言実行館 1F 入り口左の通路にレンタル用クリスマスツリーを設置する。この企画では、学生・教職員問わず、「ちゅとらサンタ」にお願いしたい事をカードに記入してもらい、クリスマスツリー横の木への飾りつけとして掲示してもらう。また、インスタフォトコンテストと題し、テーマに合った写真を撮ってもらい開催期間中に「#(ハッシュタグ)冬を彩れ！コモンズツリー2020」を付けて投稿を行ってもらうといった企画も同時に行った。2 階施設内やテラスの手すりには、サポーターが作成したリース、また今年度新しくバルーンやスノースプレー、イルミネーションも飾り付けた。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど)			
10 月中旬、企画書の作成に着手すると同時に、コモンズサポーターの中から企画協力者を募った。 11 月上旬、企画書が完成し、事務課に提出した。その後、ミーティングを行い、役割分担決めや飾り付けの案を出し合ったりするなど企画に向けた準備を開始した。 参加型企画としてインスタフォトコンテストを実施したが、全く投稿がなくもう少し宣伝に工夫が必要だったと考える。 主な企画内容であった願い事は 119 枚集まり、「コロナが収まってほしい」といった今の時期ならではの願いや、「彼女がほしい」「ライブに行きたい」といった様々な願いが書かれていた。新型コロナウイルスの影響で全体的に大学へ来る回数が減っている中では、いい結果だったと感じた。			
活動を終えて(感想、まとめなど)			
今年度は、より季節感を出すため、不言実行館 2 階のテラスにイルミネーションを飾ることにした。しかし予想以上に、飾るまでの準備、また実際にイルミネーションを設置するにも時間がかかり、クリスマスまでに飾る日数が少なくなってしまった。もっと早く企画内容を決め、余裕を持った計画が立てられたら良かったと感じた。また、本企画で行った「インスタフォトコンテスト」に関しては応募が集まらず、まだまだ活用しきれしていない SNS での宣伝方法について、今後も検討していく必要がある。 反省点もたくさんある一方で、コロナ禍であり遠隔授業になるなどして学校に来る機会が減った学生も多い中でも、学校内で季節感を感じることができる企画を行うことができたのは良かったと思う。また、昨年に比べ開催期間が短かったにも関わらず、100 名を超える参加者となった。このことから、学生や教職員ともにクリスマスへの関心の高さが感じられた。装飾のために購入したり作ったりしたものが活用しきれなかったことも課題であり、来年度はこのような準備段階での様々な課題を見直してより効率よく準備を進め、また楽しんでもらえる企画が開催できればいいと思う。			

コモンズ美活部



企画名・活動名	第4回コモンズ美活部「手洗いをもっと楽しく！カラフル石けん＆ハンドクリーム作り」		
企画に携わったメンバー	大塚愛梨	川岸朱沙	柏原純菜
	新居紅綸	池田那月	杉山友望
	説田亜夢里	山田真奈衣	中島千尋
	芝高亜実		
企画の実施日・期間	2021年1月13日（水）		

企画の内容・主旨・目的

この企画では、ワークショップを通して他学科の学生との交流を深めること及びコモンズの周知を目的としている。現在大学はオンライン授業を推進しており、学生同士が触れ合う機会が減っている。そうした中で、感染症対策を万全に行った上で、他学科の学生同士が交流する機会を設けることで、学生の楽しい学生生活の思い出となるような時間にしたい。コロナウイルス感染拡大に伴い、手洗いうがいの習慣が求められている。石けんづくりを通して正しい手洗いの重要性を伝え、多くの学生により楽しく手洗いを行ってもらう事で、中部大学における感染拡大防止に貢献したい。

最初に参加者の簡単な自己紹介を行い、ステージでコモンズの紹介や企画の説明を行った。作業机に移動し、30分ほど会話を楽しみながら石けんを作成した。固めている間にステージに戻り、実演付きで手洗い講座を行った。ハンドクリームは材料不足のため作れない参加者がおり、後日手渡しする形となった。最後にアンケートを記入し、解散した。

活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど)

当日の司会や作り方の説明などを2,3年生のサポーターを中心にを行い、人前で話したり臨機応変に進行を進めたりする力を養うことを目標とした。当日は前日のリハーサル通り堂々と話すことができ、想定していた人数よりも参加者が少ないことや、石けんを作る工程で予想していなかった事態が起きた時にも柔軟に対応することができていた。企画の準備過程では企画に携わったサポーターの仕事量にばらつきがあり、全員で企画を作り上げるということは達成できなかったという反省が出たが、当日はサポーター一人一人が参加者に声をかけたり、進行を補助したりする姿が見られ、とても楽しい雰囲気で行うことができた。また、参加者アンケートの結果は全員が「満足した」と回答、さらに、参加者から直接「楽しかった」と声をかけていただいたことから、参加者に楽しくワークショップを行ってもらおうという目標を達成することができた。手洗い講座も工程をまとめたプリントを配布し、参加者にも実際に手を出して手洗いのやり方を体験してもらうことで、正しい知識を身に付けるという目的も達成できた。当日はサポーターの活躍もありスムーズに進行を勧めることができたが、サポーターが作り方を理解していない事や、材料が足りないという事態が起こるといふトラブルも発生し、事前準備の甘さが目立ってしまった。今後このような事態が起きない為に、事前の確認をしっかりと行う必要があるということを活動後のフィードバックで共有した。

活動を終えて(感想、まとめなど)

今回も、参加者もサポーターも楽しい雰囲気で行うことができ、全体の評価としては良かったと思う。また、コロナ禍での企画開催ということで私たちにできることを考え、石けんづくりを通して正しい手洗いについて学び、中部大学内における感染拡大防止に少しでも貢献できたということが何よりも企画を開催したことの意味があったのではないと思う。

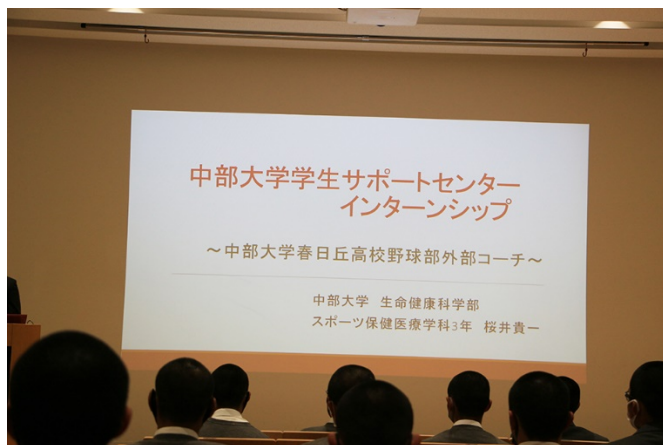
今回の企画の主な反省点は①企画の参加者が想定していたより少なかったこと、②企画に携わるサポーター同士の連携が取れていなかったことの2つである。①については、学生が学校に来る機会が減っている中で企画の宣伝の方法を工夫していく必要がある。今後はオンラインをうまく活用し、より多くの学生に企画に参加してほしい。②については、どの企画でも出てくる課題点ではあるが、一人一人の役割を明確にすること、ミーティングやリハーサルを綿密に行う事が重要である。今後の美活部の活動をこれからより発展していくために、今後のサポーターの活動に期待する。

併設校生徒・出身者のサポート



企画名・活動名	併設校生徒・出身者へのサポート（第二学年 進路ガイダンス）		
企画に携わったメンバー	丹羽和寛	長谷川巧	
企画の実施日・期間	2020 年 12 月 7 日		
企画の内容・主旨・目的 併設校である中部大学第一高等学校の進路指導部より、第二学年の大学進学希望者を対象にした進路ガイダンスへの出席の依頼を受け企画を行なった。 出席者のほとんどが中部大学進学希望者もしくは検討者であるため、中部大学での生活を中心に理系と文系にわけて説明をした。また、ワークシートを用意し質問コーナーを設けることにより対面で実施できないという部分をカバーできるよう工夫をした。ガイダンス後は、会議室を借りて対面式で質問を受けられるようにした。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど) 中部大学第一高等学校にて実施した。新型コロナウイルスの影響により体育文化センター（第一高校）での開催が困難であるため、5 教室に分散し GoogleMeet を利用して行なった。 「進路について考えるきっかけにしてほしい」という目標のもと、パワーポイントやワークシートの作成をした。当日は、高校の通信状態が不安定であったり、不慣れであるため準備に時間がかかったりと多少の混乱はあったものの、想定されていた配信ができないという最悪の事態は起こらずにすんだ。ガイダンス後は回収した、ワークシートの質問に 1 つ 1 つ回答し、質問の分からない部分などは高校の先生方や学生サポートセンター職員の方から詳しく聞き、後日返却した。質問の内容やワークシートを確認したが、私たちが伝えたい内容がきちんと伝わっていたため、目標は達成したと考えられる。			
活動を終えて(感想、まとめなど) 一番の不安であったのが、対面で実施できないという点でした。実際に慣れない形態での開催であったため、ガイダンス中も生徒全員の顔が見られずきちんと伝わっているのか不安であった。しかし、ワークシートを見た限りでは伝わっていたため良かったと思う。 だが、想定していたよりできることが限られていたため予定より早く終了してしまった点は反省点であり、次回は予め高校生に質問を募集し、答える時間などを設けることなどで対策することが考えられる。また、GoogleMeet などの通信サービスを行う場合はスムーズな準備・進行ができるように対策をする必要がある。 新たに活動を立ち上げた場合には、今回の活動結果を活かす方法を考え、活動を長く次に繋がるようにしていきたい。			

中部大学春日丘高校 クラブ活動のサポート(野球部)



企画名・活動名	中部大学春日丘高校クラブ活動のサポート(野球部)		
企画に携わったメンバー	桜井 貴一		
企画の実施日・期間	2020 年 4 月より		
企画の内容・主旨・目的 大学の野球部に所属し、派遣という形で春日丘高校の外部コーチを行った。大学の施設利用時や高校の選手情報を伝える、大学野球部で行っている練習メニューの取り入れなど野球を通じて大学と高校の繋がりの強化に貢献できるように努めた。私は将来、小学生や中学生に野球指導を行い高校野球で活躍できる選手を育成したいと考えている。そのためにも高校野球で必要とされる選手を知り、自分自身の指導力向上を目的として活動を行った。高校時代、部員 149 名を率いる主将を務めた経験を評価して頂き、初の学内インターンを任された。これから様々な部活に指導者と学内インターンを行う人が増えていくと考える。その人たちへ道をつくるという観点からも責任のある役割であると感じている。これからの基準にもなるための活動だと感じている。			
活動報告(実際の活動内容や、設定した目標、その達成についてなど) 活動内容は、日常の練習に参加し守備やバッティングなどの技術的指導、ノッカーやバッティングピッチャーなどの練習補助、試合へ帯同し試合内容に対するミーティングの実践を行った。また、野球や野球以外の選手の悩み相談なども行った。活動に対する目標は、自分の今までの経験を伝える、伝え方の工夫である。実際に高校時や大学で行ってきたメニューを取り入れることが出来た。動画を撮影したり、自ら実践したり選手が理解しやすいように考え工夫し指導を行った。昨年は新型コロナウイルスの影響もあり、4 月、5 月は練習、試合を行うことが出来なかった。ZOOM によるミーティングに参加した。実際にコーチとして活動を行ったのは 6 月からである。昨年は夏の甲子園が開催中止され、今までにないことがあったが新型コロナウイルスに対応した練習、試合を実践することが出来てきている。手洗い、うがいの徹底呼びかけ、消毒の実践を行った。大きな目標である甲子園は、まだ行くことが出来ていない。今年の夏こそは、甲子園初出場を達成できるように私の持っている力を存分に発揮したい。指導者として甲子園出場が今年の大きな目標である。			
活動を終えて(感想、まとめなど) 選手から指導者へと立場が変わり今までと違った視点で野球に携わることが出来た。スポーツを指導することは、選手と自分自身の身体の違いや運動能力、感覚の違いから伝える、理解してもらうことの難しさを実感した。指導するうえで日頃からのコミュニケーションの重要性を感じた。指導を行う時だけのコミュニケーションではなく、日頃の何気ない会話など行うことで指導時に伝えやすくなったり、聞き入れてもらいやすくなったりしたと感じた。改めて高校野球の短さ、中学までの能力の必要性を感じた。インターンシップを通じて高校野球で活躍できる人材の育成に携わり、高校野球の更なるレベルアップに貢献したいと思った。そのために将来は、中学生や小学生の指導をしたい。昨年は新型コロナウイルスの影響もあり、高校野球も今までにない形となった。そんな中で練習や試合もできない状況で甲子園に対する思いや野球が出来る喜びを実感する 1 年となった。今年は、昨年の経験を踏まえ、日頃からのコミュニケーション、伝え方を意識し、活動を行っていききたい。そしてさらに指導者として成長を目指し、選手の技術向上に尽力していききたい。			

活動報告



工学部機械工学科3年 岩田スラジュ

コモンズインターンシップでの成長



・コモンズGOLD

今年はコロナウイルスの影響もあり、テイクアウト特集を行った。私は感想をまとめる作業を行った。全員の協力により素晴らしいパンフレットと動画を作ることができた。



・冬を彩れ！コモンズツリー2020

深く関わることができた企画である。スケジュール調整や役割決めなど企画の軸となる部分を含めて新居さんと協力して進めることができた。



・あつまれ新一年生の森

途中参加ではあるがミーティングなどに参加し提案などを行った。また、中部大学の地図を覚えてもらおうとマップの問題を作成し、企画に貢献した。



・広報部門リーダー

2020年度の広報部門のリーダーを務めた。人生初のリーダーで戸惑う部分はあったが、リーダー会議や企画へのアドバイスなど含め、しっかり1年間やり抜くことができた。

・まとめと課題

今年はリーダーをやったことによる学びが多かった。中でも特に人をまとめることの難しさを再確認した。しかし、他のサポーターとコミュニケーションを積極的に取ることによって信頼感が高まり、議論などをしやすくなった。来年度は最高学年としての自覚をもって、人をまとめるだけでなくその人に寄り添った行動ができるサポーターを目指す。

活動報告

～小さなことを～

5.5期コモンズサポーター
工学部 機械工学科 3年 松井航太

冬を彩れ！ コモンズツリー2020

飾り付けを行うのはもちろんのこと、窓にスプレーで飾り付けやツリーの飾り付けの仕方などの提案、リースの作成をしてこの企画に取り組んだ。しかし、去年も行われたこの企画であるが、個人的にもっと去年と差別化を図る提案をできなかったかと少し後悔している。このような機会がまたあれば積極的に提案していきたい。

コロナ対策

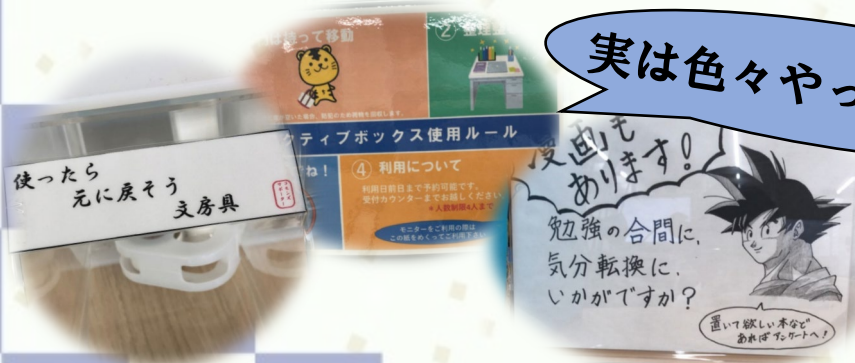
センター内におけるコロナ対策として以下の活動を行った。

①消毒版の考案・設置

②利用者用の消毒液と布巾の考案、設置

新たな生活様式を求められるようになり、その生活に適応する工夫を考えるのは難しかったが、他のサポーターに意見をもらうなどして、なんとか形にすることができた。

その他にも、学生サポートセンターをよりよくするための活動を行った。また、今年度からは後輩のサポーターができたことにより「教える」という立場が多かった。勤務やサポーター募集説明会において6期生のサポートをし、昨年度はあまり経験しなかった教える立場で成長できた。



実は色々やってみました！

今年度は小さなことをたくさん行ったが大きな活動ができなかった。来年度はもっと積極的に大きな活動に取り組みたい。また、来年度は最高学年ということで、もっと教える立場として成長していくことを目標とする。

デザイン力

ポスターなどの作成を通して自分の得意を知ることが出来た。



ピースを見つける

様々なことに挑戦することで新しい一面を知り、自己成長に繋げることが出来た。

観察力

よりよい環境作りのために何が出来るか考え行動することが出来た。

コミュニケーション力

工学部
都市建設工学科4年
川岸朱沙

まとめ

2年半のサポーター活動では、新しいことに挑戦し、学ぶ機会が多くあった。自分では気づけなかった可能性を見つけることが出来る場であった。今後は、身に着けたことを活かすと共に成長を続けていきたい。

人前で話す力

Activity report



活動報告 2020

チーフリーダー 工学部都市建設工学科4年
神野 稜太

2年間のサポーターを経験して

初めて参加した謎解きゲーム企画では企画考案から企画の活動報告まで一貫して企画に携わった。企画考案時には参加者が楽しめるようリハーサルを重ね参加者が順調にゲームを行えるよう調整した。その後も多くの企画に携わってきたが企画を行う上で大切なことは参加者の立場に立って分かり易いように立案することである。



コロナウイルスの影響により勤務も半年間なく思い通りの活動はできなかった。リーダー会議は毎月オンラインで行い前年度と変わらないクオリティで行うことができた。

社会人になる心構え

コモンズサポーターとして約2年半勤務し多くのことを学んできた。サポーターとして学びを深めるには自分から率先して動くことである。それは社会人になってからも心掛けて仕事を務めていきたいと思う。

2020年度活動報告

工学部都市建設工学科 3年 柏原純菜



参加した企画

- ・あつまれ新1年生の森
- ・コモンズGOLD
- ・冬を彩れ！コモンズツリー2020
- ・コモンズ美活部



協調性

PCスキル

Step up

元気

周りを見る力

行動力

2019年度は元気と笑顔をモットーに、企画への参加や勤務を積極的に行った。来年度は最高学年になるので、後輩に見られて恥ずかしくないような行動を心掛ける。他のサポーターと助け合いながらコモンズ全体をさらに盛り上げていきたい。社会に出る前の最後の一年なので、さらに人間力を磨き、成長できたと一年後に言えるよう活動する。





活動報告

工学部 都市建設工学科 3年
5.5期 コモンズサポーター 後藤大輝

集まれ 新1年生の森

集まれ新1年生の森では企画当日に参加することはできなかったため、話し合いに参加し、意見を出すように努めた。今までの企画とは違い、準備期間が2カ月ほどあったため、話し合い回数を増やして内容を詰めていくことが出来た。その際、意見がすべて通ることはなかったが、コロナ禍でもあり、密接、密集は出来ないなど出来ない理由を発見、共有することが出来た。当日は僕の想像より多い方が参加してくださり、後のアンケートでは好評を頂いたので、やってよかった気持ちと達成感を得ることができた。



コロナ対策

学生サポートセンターでは、約3カ月の自粛期間を経て、夏休みから本年度の活動が始まった。以前とはだいぶ勝手が変わり、机の消毒、マスク着用、検温の管理の徹底が行われた。例として、検温を促すために入り口にはホワイトボードで案内を書き、巡回中、閉館時は机や貸出文具に消毒を行った。結果的に業務が増えることになったが、そこでまで対策をしなければ今、施設として運営することが出来ない。ので、事の重大さを実感する要因になった。



2020
年度

不安から始まった年度でした。実際にサポーターとしてできたことは上記のものだけでした。しかしその分、例年よりも何をしようか、どうしようか、といった話し合いが増えた年になり、サポーター間の結束がとて強い年になりました。その結果、去年とは違い、何か行動しようとする時には周りとは相談して、時には話し合いに入り切れていない人に振って意見を聞きつつ、頼りつつも助けようとする事が、できるようになりました。

活動報告 ポスター

コモンズサポーター5.5期生

工学部建築学科2年 後藤龍聖

コロナの影響で 作成したもの

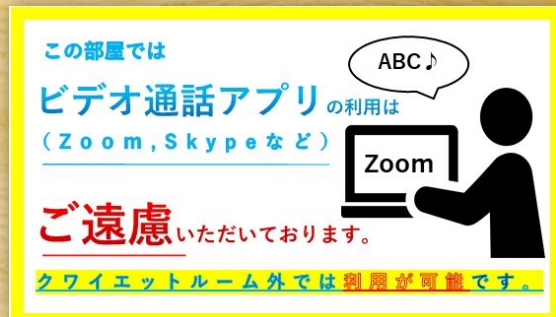


図1. クワイエットルームの
利用についてのPOP

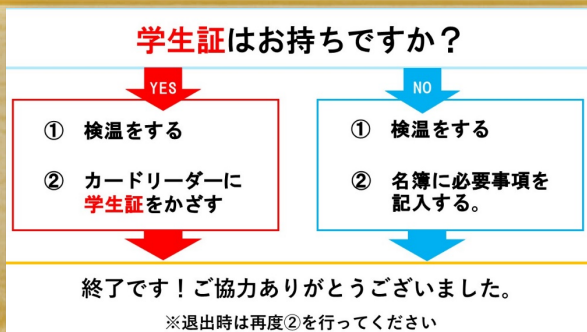


図2. 入退室記録のやり方
についてのPOP

これら2つのPOPは、利用者がより快適に利用できるように作成したものです。

図1のPOPは、クワイエットルームで声を出して、遠隔授業を受けて欲しくないという目的で作りました。

図2のPOPは、わかりづらい入退室のやり方を、理解してもらう目的で作りました。

しかし、利用者にとってはわかりずらかった！

図1のPOPは、録画された授業も受けてはいけないと思われてしまった。

図2のPOPは、高校生の利用者は記録する必要がないと思われてしまった。

以上のことから

一度で完成させようと思わず、周りの意見を取り入れ、修正していくことが大切だということがわかった。自分一人だけで完成させていくのではなく、仲間の意見、利用者の意見に耳を傾け、完成させていった方がより良いものが作れることが分かった。

今後に向けて

今までの活動の中で、コミュニケーションの重要性を知ることができた。来年の活動では、様々な人と関わりあい、自身の成長につなげたい。

活動報告

工学部応用化学科2年
新居紅綸

勤務

勤務中は、様々な学生や職員の方と会話する機会があり、コミュニケーションを取るようになって心掛けるようになった。また、カウンター業務などで利用者の要望や質問に答える中で対応力も身に付いたと思う。他にも企画のポスターやコモンズ内のPOPなど利用者が見やすいデザインを考えることも楽しいと思えるようになった。

コモンズサポーターになって

不得意だった人前で発表は、今だに緊張はとてもするものの、以前よりも気負わずスムーズにできるようになったと思う。さらに、勤務や企画を通しコミュニケーション能力が上がったように思う。また、発表のためのパワーポイントを作る中であまり使ったことがなかった機能も使いこなせるようになった。

コモンズ美活部 石けん＆ ハンドクリーム作り

司会では、新サポ募集説明会に続き人前で話す機会としては2回目となり、パワーポイントや原稿はもちろん、ジェスチャーを用いて説明するなど参加者に伝わりやすい発表を考えて行うことができた。

冬を彩れ！ コモンズツリー2020

企画者として進めていく中で、思ったより準備が進まなかったり、SNSを使って応募作品を募ったが全然集まらなかったりと課題は見たが、多くの学生や職員の目に止まり願い事がたくさん集まったのは良かった。準備がどこまで進んでいるのか、役割分担として何をやってほしいかなどのサポーター間の情報共有がとても大事だと思った。

あつまれ 新1年生の森

初対面同士の参加者の輪に入り、参加者同士の交流を深めてもらうために自ら話を振ったり中心的にゲームを進めていくことがとても難しかった。上手く話を振れなかったため静かになってしまうこともあり、どうしたら参加者に楽しんでもらえるのか、コミュニケーションの取り方について考えさせられた。企画を行うためのミーティングや準備には多くの時間を要するのだとその後の企画の参考になった。

成長

今後の課題

今年度は企画に参加するにも勤務でも、分からないことや初めてなことが多く先輩サポーターに頼ることも多かったが、1年間サポーターとして活動してきて、来年度は自分から行動、また自分の意見をもっと発言していけたらいいと思う。また、多くの人とのより積極的なコミュニケーションを心がけたい。



キャンパスなび

コモンズサポーターとしての経験も浅く、緊張と不安を抱えながらサポーターウェアを着用していました。先輩サポーターをお手本にしながら学生へと声をかけていましたが、たどたどしくなってしまう人見知りやコミュニケーション能力といった自分の弱点に気づくことができました。

2020年度活動報告

第6期コモンズサポーター 工学部応用化学科2年 池田那月



冬を彩れ！コモンズツリー2020

ツリーの設置やイルミネーションの設置はセンスがいるうえ大掛かりなために多くのサポーターの協力が必要不可欠でした。この企画ではバルーンやスノースプレーなど自分にできることを探して積極的に動くことができました。



あつまれ新1年生の森

ミーティングやポスターの掲示依頼、当日の受付など私にとって初めてだらけの企画でした。多くの人達と関わることができ、当日には参加者に「楽しかった!」と言ってもらえたことを嬉しく思いました。



コモンズサポーター募集説明会

ステージ発表は事前に何度も打ち合わせ・読み合わせを行ったおかげで緊張はしたもののはっきり聞き取りやすく説明できたと感じています。また、資料作成を共に行ったことで知らなかった機能を知りスキルアップもしたと感じました。一方で、当日も発表原稿が手放せず、より臨機応変に、聞き手に寄り添った発表ができた方がいいといった自身の課題も見えてきました。



コモンズ美活部 石けん&ハンドクリーム作り

当初、作り方説明は私がするはずでした。しかし、企画当日に参加出来なくなり他のサポーターに負担がかかってしまいました。事前準備でもっとサポートできれば良かったのですが、今何が必要か、何が足りないかの把握ができておらずサポートも難しかったです。スケジュール管理や残っているタスクの把握など、私にとっては今年度参加した企画の中で最も反省すべきことの多い企画でした。



変化と適応

工学部情報工学科
4年 石黒成哉

ボランティア・
NPOセンター

上級生が中心となって、学内外の子どもからお年寄りまでを対象とした幅広い活動。

活動例：被災地支援活動、老人ホーム訪問、OC等

コロナ禍
新しい
生活様式

変化

所属団体が違うだけで個人の在り方が違うこと、取り巻く環境も大きく変わることを実感した。

また、本年は新型コロナウイルス感染症の流行による変化にも戸惑わされた。

コモンズサポーター

学年関係なくサポーター全員で、本学の学生により良いコモンズを利用してもらうために活動。

適応

大きな変化に適応するため、意欲的に業務に就き、サポーターとのコミュニケーションをとることに努めた。1年生企画にも当日企画の手伝いをさせていただき、コモンズ企画を体感した。またコロナ禍における新しい生活様式へ適応するため、日々更新される新型コロナウイルス関係のニュースや記事に目を通し、業務についた。

またNPOセンターで得たものを、サポーターへ還元することにおいても努めたが、新型コロナウイルス感染症の流行により思ったように業務や企画を行うことができず、得たもの全てを還元することは叶わなかった。

活動報告書

工学部 ロボット理工学科

3年 杉山友望



手を洗おう
#WashHands



換気をしよう
#OpenWindow



近づかないよ
#KeepDistance

サポーターとして活動を通じて私の学び、気づき、工夫、苦労、成長とは



今年はコロナ感染の影響で、半年間学生サポーターをお休みしていた。

しかし、他の学生サポーターはコロナに負けずたくさんの感染予防策を考え、行動に移し、活動を続けていた。

このことから、私は周りの人たちの大きさ、重要さに気付くことができた。また、環境の変化の重大さにも気づくことができた。

勤務の際工夫したことは、コロナの対策だからといって、今までの学生サポートセンターの利用しやすさを損なわないように心掛けた。何人利用者がいるか、いつ退出するのか、最低でも自分の担当している階を1時間に2、3回は巡回を行うようにした。そして、少しでもみんなの心が明るくなれば良いと思い、受付カウンターに設置しているちゅとらに服を着せたりした。

巡回、消毒、検温業務が増え、あまり仕事が進まない時もあった。しかし、コロナ感染の影響で中部大学が閉鎖し、学生サポートセンターも同時に閉鎖する際、“困る、最悪、これからはどこで勉強しよう”などの声を利用者から頂いた時、利用者にとって居心地の良い施設になっていたことが分かり、嬉しく感じた。

この1年で今までとは違う体験をし、サポーター、利用者、事務室の方々の存在大きさを知ることができた1年でした。

来年度は、学生生活ラストとし、“人とのつながり”を最も大切に、利用者の声にしっかり耳を傾ける事を課題としている。

アンケートやコミュニケーションを利用し、さらなる向上を目指していく。



国際関係学部国際学科4年 大塚愛梨のサポーター超☆関記

サポーター
スタート！

START!



法律カフェで司会進行！
緊張しすぎて噛みまくり！

リハーサルはなんと3回！！本番は緊張しすぎて覚えていない！



一緒に入った友達がりタイア！紅一点に！
まさかの女子サポーター1人だけ！？モチまくり
コモンズライフスタート！？

交流カフェでメンタルボコボコ！！

初めての主担当！でも思う様に行かずセンター長の前で大泣き！？



Fill本番！
3位で号泣！

緊張しすぎてみんなガッチガチ！でも仲の良さが認められて結果オーライ☆



Fill準備で雨の中まさかの脱走！
もういい！帰る！って原稿作りを放棄！まさかの展開に一同仰天！



新サポ研修！先輩からのスパルタ教育！

リハーサルの数、なんと7回！！それでもめげない鋼のメンタルを手に入れた！



リーダー就任！
その名を残せるか！？

班リーダーというよくわからない部門のリーダーに！
何と1年で部門消滅！



飲み会でやらかし！
S先輩と大喧嘩！？

その伝説は今なお語り続けられる・・・



プロの技！パンフ作成で大活躍☆

謎解きinコモンズでパンフレットを作成！先輩に褒められ鼻の下伸びまくり！



司会も慣れすぎ！
法律カフェの女王爆誕！

3回目の法律カフェの司会！
一体何回やらすねん



研修のサポートで大激怒！？

研修の練習でヒートアップ！怒りに身を任せて大反省！



3年間を振り返って

2年生の春から始めたコモンズサポーター。分からない事ばかりで、先輩に怒られて泣いたり、仲間と企画をやり遂げて喜び合ったり、一緒に悩んだり……。サポーターの活動は私の大学生活の中心でした。2年目からはリーダーを務め、リーダーとは何か、どうあるべきかひたすら悩み突き進んだ2年間でした。私の思い描くリーダーになれたか分かりませんが、本当に大きく成長した2年間です。ここでの経験は私の大切な宝物になりました。いい仲間に出会えて本当に良かった！先輩たち、あとは任せたぞ！

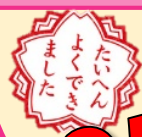
美活部で主担当！
コロナ禍での開催はにかに・・・！

参加者は過去最少！でも楽しかったしまあいっか(*▽*)



あばよ！

今までお世話になりました！



GOAL!



活動報告書

国際関係学部国際学科 2年 説田亜夢里

《1年間コモンズで働いて学んだこと》

私がコモンズサポーターになって学んだことは、「利用者に積極的に話しかけること」と「人前で話すときのコツ」です。利用者さんや困っている人を見かけたら積極的に話しかけることが大事だと学びました。

《参加した企画》

- ・「あつまれ 新1年生の森」
- ・「コモンズサポーター募集説明会」
- ・「コモンズ美活部 石けん&ハンドクリーム作り」

《企画で学んだこと》

私が初めて参加した企画は「あつまれ 新1年生の森」でした。企画をする上で、最も大事なものは「話し合い」だと思いました。話し合いで企画者が何をやりたいのかを知り、そのことをベースに内容を決めるということが分かりました。そして、今回初めて企画に参加して議事録が大事なものだとなりました。それは、1回目と2回目の話し合いで企画の内容が変わってしまったからです。議事録は、その場にいなかった人も後から見るができるため、話し合いの時から作成した方が良いと学びました。

《全体会議の議事録》

私は、12月に行われた全体会議の議事録の作成を担当しました。議事録は、「会議で話し合った内容などを文字に起こして記録したもの」のことで後から見た人にもわかりやすく内容を伝えなければいけなかったのですが、自分では伝わると書いて書いたことは他のサポーターから見たら伝わらないことがあるということが分かりました。相手にわかりやすく伝えるためには、文章を読み返すことが大事だと分かりました。

《2021年の目標》

- 私の2021年の目標は、
- ・「小さい声にならないように気をつけること」
 - ・「挨拶を心がけること」です。

今年度は、利用者さんにどうやって話しかければ良いのかが分からなくて話しかけることがあまりできませんでした。私は、話しかける以前に挨拶がしっかりとできていないと感じました。なので、当たり前前のことを当たり前前にできることが大切だと思い、最初は『挨拶』を相手に伝える声の大きさでできるように頑張りたいと思います。



活動報告書

人文学部心理学科 山田 真奈衣

あつまれ新1年生の森



初めての企画では、司会を行った。また、こういった雰囲気で行うのか何を行うのかなどを1から考えた。何度もプレゼンテーションの練習を重ね場を盛り上げることが出来た。内容の面では、普通の自己紹介ではなく、記者会見風自己紹介を行い多くの質問の中で仲良くなれる工夫を行った。当日は忘れてしまった部分もあった。また、緊張感で相手にも緊張感が伝わってしまった。また、コール&レスポンスを入れることでさらに盛り上がると感じたのでこれかたこういった反省を活かしていきたい。

冬を彩れ！コモンズツリー2020



ツリー企画ではインスタ映えをするためにはどういった飾りつけを行うかを考えながら行った。準備や飾りつけに携わり、利用者が楽しく過ごせるようなバルーンの配置や、外からでもクリスマスを味わえるスノースプレーの実施などを行った。ツリーでは、照明を設け、どの色だと親近感のあるツリーを感じる事が出来るか、実際に色のついたテープを用い何度も試行錯誤した。完成したときは達成感を味わうことが出来、友人も写真を撮ってくれたのでうれしくやりがいを感じた。

コモンズ美活部



美活部でも司会を行った。自己紹介を行いながら参加者とコミュニケーションを行うことが出来た。前回の反省を生かし緊張感なくプレゼンテーションを行えた。また、参加者に積極的に声をかけ、スムーズに作業が進んだ。しかし、実際に材料を多く調達する事や、試作に最後まで立ち会えずリーダーに任せてしまった部分があったので、少しでも出来る事を採り率先してやりたいと思った。

挑戦 ➡ 学び ➡ 成長

今回の活動の中で、多くの**発見**があった。最初は、何事にも挑戦したい、自分を変えたいという気持ちで企画に参加した。その中で、多くの**学び**があり発見もあった。そういった発見が積み重なり**成長**につながると思う。実際、コモンズの活動の中で司会を行うのも、企画を1から考えるのもパソコンでパワーポイントを作成する事もまずは挑戦と思い、積極的に行った。その中で多くの活動できる場の中で最初は緊張もしコミュニケーションも取ることも難しかったが何度も場を重ねることで自信につながり成長になった。こうした糧を社会になっても身につけるためにこれからもコモンズの活動で多くの挑戦を行いその中でよい事も悪かった事も学び成長につなげていきたい。

生かされているということ ～常に謙虚に～

①今年度感じたこと、胸に秘めていたこと

- ・サポーター最後の年、今後学生サポートセンターを担っていく後輩に対して何を残していこうか、思い悩んだ。残していく以上は、「コモンズサポーター」にとって、「学生サポートセンター」にとって大切なものでないといけないと考えた。
- ・コロナ禍で、これまでよりもサポーターと学内で会う機会が激減したことで、人とコミュニケーションを取る事が困難になり、一人で様々なことに向き合わなければならない、寂しさを感じた。
- ・秋学期から、本格的にサポーターとしての業務が再開されたが、コロナ対策を念頭に置いて、学生サポートセンターの運営をしていかなければならないことから、センター内のアルコール消毒や換気、コロナ対策の機械の設置、その取り扱いなど、何気ない日常がこれまで通りではなくなり、日々様々な変化と目まぐるしく戦うことが辛く、好きだったはずのサポーター活動のモチベーションが低下した1年だった。

②今年度のサポーター活動で工夫したこと

- ・この一年間は主担当といったメインポジションよりも、その裏方や脇役のポジションに回るようにした。一番上の学年が周囲を引っ張っていく…ということがクラブ活動などにおいては通例かもしれない。しかし、自分の成長も何より大事なことで、そこから発展して後輩たちの「コモンズサポーターとしての成長」という面を考えてサポート役に徹するように意識した。
- ・普段のサポーター業務においては、より「人と関わる」という点を意識した。自分個人の意識で勤務に取り組むのではなく、その日の相方のサポーターの様子を確認したり、困っていそうな利用者に「大丈夫ですか？」と声をかけてみたりと、コロナ禍でこれまで通りに人と向き合うことが困難になった中でコミュニケーションをととても大事にした。自分の普段の行動を変えたことで、新たな価値観の発見や、自分自身の視野を広げることができたと考える。

③活動を通して

- ☆これまでサポーターを続けてきて、リーダー、企画主担当、企画主担当の補佐など、様々なポジションを経験することができた。学生時代にしかできない経験だと感じた。
- ☆色々なポジションを経験したからこそ、それぞれで見えるものも違うし、ポジションごとで異なる苦労などに共感できる場面が多くあるのではないかなと思う。
- ☆上のポジションで周囲から認められないほど、不満や不信感を募らせてしまうこともあるが、そこでの評価をしっかりと受け止め、謙虚な姿勢で自分と向き合うことが大切。逆に相手から信頼されるために、次のアクションをどうするか。そこは自分の考え方、行動次第だと思う。
- ☆年も学年も、当然ものの考え方も違うサポーターの仲間と関わったことで様々な価値観に出会うことができ、加えてこの一年間で身近に知り合いのいなかった自分にとっては心の支えになり、とても貴重なかけがえのない存在になった。

大学生活を通しての今後の目標

- ☆周りに「生かされている」ことに感謝し、周囲との「信頼」を大事にする
- ☆人に言われる前に、「自分から行動」できるようにする
- ☆相手のそれぞれの価値観を受け入れ、壁を作らない人間を目指す
- ☆目の前の困っている人に、「大丈夫ですか？」と手を差し伸べられるような人を目指す
- ☆今後、場所や立場が変わっても、「自分を成長させる」という謙虚な姿勢を持ち、人と向き合う

コロナ禍におけるコモンズとしての取り組み

はじめに

人文学部 歴史地理学科
2年 池田拓生

前回の修了式から約1年、今回の1年間はコロナの影響によりこれまでのコモンズサポーターとしての活動が行えない中で、如何にして企画立案・実行や積極的な行動力を発揮するのかを考え、行動に移す事が重要な年となった。

この1年間で行った事

Commons Cooking

コロナ禍において遠隔かつ自宅で行える企画として、本企画を立案しました。最初は初の試みであった為、準備段階で四苦八苦する事がありました。段階を乗り越えた後は、軌道に乗せることが出来ました。しかし、当初の目標に掲げていた「調理実習室を利用する」事を実現する為に現代教育学部の事務室の方と交渉を行いました。コロナの影響により実現不可能となる等、思う様に進まない事も痛感しました。



あつまれ新1年生の森(1年生を対象として行った企画)

この企画では立案には携わっていないものの、司会という大変重要な役を任される事となりました。発表用の原稿を作成する傍ら、各項目の担当グループに参加し、他よりも遅れをとっていると感じたら、サポートに回ったり、一部作業を受け持ったりする等、司会以外の行動を積極的に行いました。また各担当が情報共有を行わずに個人行動も行っていると感じた際には、共有を行うべき他担当のグループへの橋渡しを行う事で、司会の役を有効的に活用しました。



勤務中における感染対策

利用者が安心して利用できる施設とするべく、また利用者が自主的に感染対策に参加出来る様に様々な取り組みを行いました。特にペーパータオルの設置に関しては、いかにすれば利用者が自主的に行動を起こしてくれるかをメンバーと協議を行いながら試行錯誤しました。

ショッピングモールで行われていた感染対策の取り組みをこのコモンズセンター内でも使えと気づき、採用した結果、自主的に消毒を行ってくださる利用者が増えました。



まとめ

1年前と比較すると、行動力が上がったと実感出来る。しかしコロナの影響により、今回行った企画または活動の中には不完全燃焼の物もあった。今回の約1年間の活動を見直し、今後は行動力を更に上げるだけでなく、コロナ禍の中においても十分に活動が行える企画の立案に取り組みたい。

伝えることの難しさ

応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻
4年 國井 博誉

活動当初

クラブ運営委員会では他者に伝えることの難しさを痛感した。そのため、コモンズサポーターとして活動するにあたり、「伝える」を大切にしたい半期間だった。4年生でありながらコモンズサポーターとしては1年目だったため不安ばかりのスタートをきった。

成長

コモンズサポーターの活動を通して、「伝える」ということはただ言い方を変えればいいという考えを変えるきっかけとなった。大切なのは、相手が何を知りたいのか、何を自分に求めているかを考えることが必要だと知ることが出来た。

企画

「あつまれ 新1年生の森」の企画、運営に携わった。主として動くことはできなかったが、一から企画して作り上げることの大変さを改めて学ぶことができた。また、日報のルール作りにも携わった。どの内容が大切になってくるのかを考え、勤務していく上で効率よく業務の引き継ぎが行えるように考えた。

今後の自分

コモンズインターンシップを通して、学んだ「伝える」という力を社会人でも発揮していきたい。活動当初のような固定概念を考え直すきっかけを大切にして頑張っていきたい。



活動報告

コモンズ
COOKING

応用生物学部 食品栄養科学科 3年
4.5期学生サポーター 芝高亜実

自粛期間中の学生のために、低コストで簡単、美味しい料理を撮影する企画に参加した。料理を家であまりしない方だったが、調理班に積極的に参加し、パンキッシュとキーマカレーを自宅で作成した。撮影した動画は学生サポートセンターのSNSやYouTubeにアップしてもらい、学生により知ってもらえるようになった。私自身もこの企画に参加したことで、料理により関心を持てた。



あつまれ
新1年生の森

コロナ禍で、入学した1年生の不安を少しでも解消したいという気持ちでこの企画に参加した。週に1回のミーティングにほとんど参加ができなかったが、当日は質問コーナーで、「アルバイトと勉強の両立はどのようにしているか」「人とコミュニケーションを上手に取る秘訣」などの質問に回答することができた。多くの参加者が集まり、アイスブレイクやゲームなど楽しんでもらえ、企画後のアンケートでも好評だったので嬉しく感じた。

これから



この1年は6月からインターンシップに参加し始め、自分から企画に参加しても、思うように話し合いに参加ができず、自分の中でもどかしい部分があった。来年度は就活に加えて卒業研究があるが、自分にできることは何かを冷静に考え、視野を広く持ちたい。自信をもって社会に出ることができるよう、カウンター業務や企画などでより多くの経験を積みたい。

新たな取り組みと私の成長

4.5期コモンズサポーター 生命医科学科・3年 武田祥也

1. 今年度を振り返って

○昨年までとは大きく異なる状況

○様々な問題が浮き彫りに

○サブチーフリーダーの立場、
勤務から離れて見つめ直す



○いかに改善するか

○今後、どのように改善策を
施行するか

→大きな**課題**に

2. 主な取り組み - トラブルレポートの実践

○インシデントレポートを模したものの。2019.10～運用開始。

○団体のためだけでなく、サポーター各個人が、社会で必要となる
リスク管理能力を身につけることを最大の目的としている。

○個人・団体としても「反省や課題点を次回に活用できない」という
現状の打破を目指す。

3. トラブルレポートの到達度

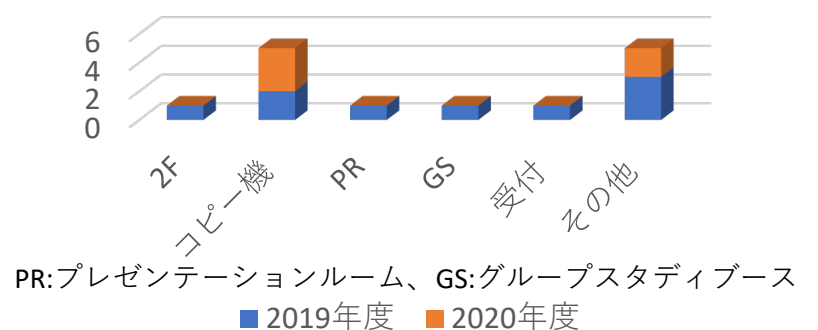
○2019年度(10月～1月)で**9件**

2020年度(11月～1月)で**5件**

○右図は、発生場所をまとめた実際の集計の
一例である。**コピー機**での問題が多い。

○まだ統計解析ができるほどの情報がない。
集計方法にも改善の余地がある。

図1：トラブルレポート集計例
(発生場所)



5. 今後に向けて

○取り組みとしては、今後も引き続きデータを蓄積し、
よりよい活用方法を検討していきたい。

○今年1年の取り組みで、周りに気を配りながら
自分がすべきことを考える力の重要性を知った。

○来年度はサポーターの**原動力**となれるよう、挑戦を続けていきたい。

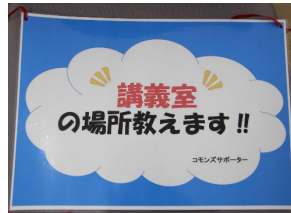
サポーター活動での成長と課題

生命健康科学部生命医科学科
2年 丸山喬士

成長

OJT終了後から勤務に入るまで、数か月も経ってしまったが先輩サポーターや事務課の協力によって徐々にできることが増えていった。できることが増えるにつれて工夫できる場面が増えていった。

キャンパスナビ



キャンパスナビを成功させることができたが、一部の施設の位置をまだ覚えきれておらず、当日に別のサポーターへ相談することがあった。「もう覚えた」と慢心せずに復習するべきであった。

課題

冬を彩れ！コモンズツリー2020

初めて参加した企画は「冬を彩れ！コモンズツリー2020」であった。全員で集まることが難しく、Lineで連絡を取り合いながら仕事を割り振り企画を進行した。それぞれの役割の人が仕事をこなすことで、着々と進んでゆき、企画を成功させることができた。



購入リストのまとめを担当していたが、リストの提出日や内容をしっかりと確認していなかったため、相方のサポーターに任せきりの状態になってしまった。提出日や内容の確認を徹底して行うべきであった。

募集説明会

12月の新サポーター募集説明会では初めて人の前に立ち発言する機会を得た。練習では原稿が飛んでしまったり、スライドが上手く作れなかったりと課題が多くあったが、本番ではやり遂げることができた。



スライドや原稿の作成を先輩・相方のサポーターに頼ってしまった部分が多く、自分で作成した部分が少なかった。誰かに頼るだけではなく、自分自身でしっかりと行動をするべきであった。

1年間サポーターとして活動をして、たくさんの課題が見つかった。課題はそのままにしないで、次年度で改善し、成長したところは、さらに良くしていくよう努力する。

コモンズ活動報告書

現代教育学部現代教育学科 4年
川上くるみ

言葉遣い

学生がつくる学生が使う場であるこのコモンズは同じ学生が運営しているからこそリラックスして過ごしやすい環境が作れていると思います。ですが学生同士だかなんでも許されるというわけではないと思いました。そのため、私はコモンズサポーターとして時には注意をしたり提案したりしてよりたくさんの利用者が過ごしやすい環境を作ることができました。



気遣い



初めて利用する利用者や一年生はコモンズの使い方やどのような場であるのかがよくわかっていませんでした。そのため積極的に声をかけて使い方や出来ること、過ごす上での気をつけて欲しいことなど、雑談を踏まえながらお話しすることで、その利用者が「また来たい」と思ってもらえるように努めました。

周りを見て自ら行動する大切さを学びました。見て気づくことも大切ですが行動しなければ意味がありません。見て見ぬ振りをせずアクションを起こすことで次へとつながっていくことを学びました。この経験を生かして社会人になっても取り入れていきたいです。

昨年は、全然業務にも企画にも参加できず、サポーターとの仲を深めることが出来なかった。今年は自分からサポーターに話かけたり、企画に積極的に参加したりすることを目指した。



現代教育学科4年中島千尋

Fil

冬を彩れ
コモンズ
ツリー2020

Fil

他大学の人と交流し、コモンズサポーターが業務や企画をする上でどのようなことに困っているのか、問題にぶつかった時にどのように解決していったのか、学んだことなどをプレゼンテーションで発表する。センター長、事務課の方や他のサポーターからアドバイスをいただいた。数え切れないほど練習を行ったので本番は上手くいくと思いきや、言葉がとんできまい悔しい思いをした。しかし、人前で話し方や達成感など得られたものが多く、挑戦することが大切であることを学んだ。

冬を彩れ コモンズツリー

企画者のサポートを行った。具体的には、イルミネーションを付けたり、クリスマスリース、クリスマスツリーの飾りを作ったりした。一人ではできない企画だったので、協力すること、アイデアを出すことの必要性を改めて感じた。

コモンズ
美活部

新1年生
企画

コモンズ
COOKING

石けん&ハンドクリーム作り

コロナ禍で企画の準備や話し合いが上手くできなかったが、なんとか本番を迎え、参加者が喜んでくれた。しかし、材料が足りなかったことが反省点である。

話し合いが上手くできない中で、自分には何ができるのか、どのようなものがいいのかを考えることが大切であることが分かった。

あつまれ 新1年生の森

学生サポートセンターに頻繁に訪れたこともあり、自分の意見や考えを人に話せるようになり、初めて自分がやってみようと思った企画をすることができた。新一年生はどのような悩みを持っているのかを考え、学校生活を楽しめるようなレクリエーションや交流の機会を設けた。役割を分担したり、話し合いをスムーズに行ったりすることの難しさを感じた。役割を分担したら進捗状況を確認することが重要であることを学んだ。

コモンズCOOKING

コロナ禍でもできる企画として誕生した。簡単に作ることができる料理の作り方を動画で配信した。企画担当者が集まり、大学で料理を作ろうと提案したが、現在コロナ禍で家庭科室の使用を認めてもらえていない状況にある。

今後に向けて

今年の目標を達成できたと思う。Filの活動を始めとして、他のサポーターと協力しなければ成り立たない活動をし、自分からサポーターに話かけアドバイスを求めた。また、企画をサポートする立場と企画を立ち上げる立場の両方を経験した。頼まれたこと以外にもどのようなことをしたら良いのか考えたり、話し合いをし、人の意見を受け入れた上で自分の意見を述べたりしていくことが重要だった。このようなことから、来年社会に出てからも自分の考えを持ちながらも人との関りを大切にしていきたいと思う。

コモンズサポーターを経験し、気づかいができた、先のことを見据えて行動できたり、思いやりを持っている人たちに会えて最高の思い出となった。

キャンパスサポーターと自分の成長

工学部 機械工学科 3年 長谷川巧

1. 現状の調査

キャンパスサポーターとしてはじめに行ったことは高校、大学の現状把握と課題の調査を行いました。

キャンパスサポーターのメンバーや職員の方々とのミーティングや中部大学第一高等学校の校長を務められていた西山先生とのヒヤリングなどを行い、

「学生側の視点で発信する」という大きな方向性が決まりました。



2. 高校生に向けた活動の成果と効果、今後の課題について

中部大学第一高等学校にて高校二年生に向けた進路ガイダンスを行いました。GoogleMeetを用いてオンラインで5教室に分散することができました。全生徒に対面で実施することができませんでしたが、説明後ワークシートを確認すると話を聞いて埋める空欄や質問をしっかりと記入して効果が確認できました。今後、この結果を活かしスムーズな準備・進行ができるように対策をする必要があると思いました。

3. 今年度を振り返ると

キャンパスサポーターは2020年新たに開設され、2020年度では「キャンパスサポーター」という枠組みをどういうものにするのか手探りながら実際に活動を行い、その結果から新たにどのようなことが見えるのか、という計画、実行、評価、改善という部分を深く考える一年でした。

自分自身としては他団体の活動とキャンパスサポーターを両立する難しさはありましたが、キャンパスサポーターによって様々な人との関わることによって、コミュニケーション力や考える力がついたと思います。



併設校生徒・出身者へのサポート



立ち上げの一年間

人文学部 日本語日本文化学科 3年 丹羽和寛



始動

キャンパスサポーターにとって2020年は始動の年でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により年度初めに計画していた企画などがすべて出来ず、高校と学内の周知活動が全く行えませんでした。結果的に予定などがずれ込み、思うように活動ができなかった1年となってしまいました。

次年度にむけて

第一期生ということもあり、まだまだ土台作りの最中といった状態です。2021年度は、今年度の経験を生かしつつ、コロナの影響で実施できなかった企画などを実施できたと思っています。また、併設校との連携もより深めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

キャンパスサポーターとは

キャンパスサポーターは、2020年4月学生サポートセンターに新たに開設された部門になります。現在の活動内容は、主に併設校である中部大学第一高等学校から中部大学に進学希望の生徒のサポートと、進学者のサポートであります。



春学期

4月に昨年度まで第一高校の校長をされていた西山隆久先生にお会いし、進路における課題や今後の高大連携などについての相談やアドバイスを頂きました。また、周知活動として学生サポートセンターのチラシを第一高校の進学希望者への配布と、(株)セントラルサービス日進営業所様にスクールバス内に掲示していただけるよう依頼を行いました。



秋学期

春学期からずれ込んでいた、進路指導部主任の先生への正式な挨拶を11月に行ないました。12月7日には2年生向け進路ガイダンスを第一高にて実施しました。コロナの影響によりGoogleMeetを利用して5教室に配信する形式で行なったが、通信状態や対面式ではない点など当日なかなか上手くいかない点などもありました。しかし、内容はきちんと伝わっていたため安心しました。



成長と反省

キャンパスサポーターは比較的、学外の方を相手にする機会が多く、特にメールの文について書く内容や文章に失礼がないかなど気をつけるようになりました。反省点としては、活発的に活動が行えなかったことです。次年度は新サポーターと共により活動が行えたらと思っています。また、高校に対する挨拶が不十分であったため、事務課の方と協力し管理職等の先生方への挨拶をきちんと行ないたいと思います。

中部大学春日丘高校野球部コーチ活動報告

生命健康科学部スポーツ保健医療学科 3 年

桜井 貴一

活動内容

バッティングや守備の技術指導やノックやバッティングピッチャーなどの練習補助。指導では、動画を撮影したり、自らプレーして見せたりした。

野球との関わり方

今まで選手として関わってきた野球から指導者として関わるようになった。今まで見えていた世界と違ったものが見えた。自分ができないもどかしさ、指導した選手の活躍の喜びなど選手としてはなかった感情があった。選手選びなど考えなくてはいけないことが増えた。



活動報告会

2 月 15 日活動報告会を行った。1 年間の活動を通して感じたことや自分の高校時代のことなどを野球部の生徒や先生方、学生サポートセンターの関係者の方に対して伝えた。今回の発表会を行うことで活動について振り返ることが出来た。



今後の課題

まだ選手に伝えきれていないことを伝える。今持つ自分の経験、知識を伝えるとともに新たな情報・知識を求める向上心を忘れず自らも成長し、春日丘高校野球部の甲子園初出場に貢献していきたい。

メモ



メモ



メモ



